

2 メ ー ト ル 弱

人物

高村 幸 (33) (34) デザイン事務所勤務

田部 井 涼 (29) 駆け出しのダンサー

小島 紀子 (33) 幸の学生時代からの友達

金田 陽子 (40) デザイン事務所の先輩

佐藤 和也 (30) デザイン事務所の後輩

ZOOMに出てくる同僚他 3 人

ニュースキャスター

○小さな公園（朝）

誰もいない公園。

雨が降っている。緑の葉を生い茂らせた桜の木が、公園を取り囲むように等間隔に植わっている。

その一枚一枚の葉が雨に濡れ、色濃く光る。

砂場の近くに置き去りにされた三輪車がひとつ。

雨雲が深く垂れこめ、けぶった景色の中、すべての物がいまいに見える。

○幸の部屋（朝）

出窓に肘をついている高村幸⁽³³⁾の後ろ姿。つけっぱなしのテレビからニュースが流れている。

ニュースキャスターの声「昨日、安倍首相により、緊急事態宣言の延長決定が発表されました・・・」

幸がテレビの方向へ振り返り、少しし

て小さなため息をつき、また窓の方を見る。

ガラス窓に着いたいくつかの雨粒が流れ落ち、ひとつの大きな雨粒となり、はつきりとした奇跡を残しながら滑り落ちていく。

○ 幸の部屋から見える景色・ビルの屋上
(朝)

小さな公園の三輪車が雨に打たれている。はす向かいにくすんだ白色の小さな建物。屋上の所々に小さな水たまりができている。

屋上の扉がゆっくりと開く。

G パンに紺色の T シャツ姿の田部井涼⁽²⁶⁾ が姿を現す。涼が脱力したような雰囲気で見上げる。しばらく動かない。

T シャツの紺色が瞬く間に色濃くなる。

髪の毛から雨がしたたり落ちる。

涼がぶるぶるっと頭を振った次の瞬間、踊りだす。しなやかな肉体を波打たせるような動き。ジャンルのはっきりしないコンテンポラリーダンスのような動きがしばらく続く。ジャンプ着地からピルエットへ。4回目の回転で足を滑らせ体をコンクリートに打ち付ける。

○ 幸の部屋（朝）

幸がすごい勢いで立ち上がり窓の隅に移動し、窓を開けて顔を出す。

幸「大丈夫ですか？・・・」

自分の大きな声に驚いたように掌で口をふさぐ幸。

○ 幸の部屋から見えるビルの屋上（朝）

仰向けで目を閉じ、しばらく動かない涼。体を立て直し、声の行方を捜すように頭をゆっくりと動かす。動いてい

た頭がある一点で止まる。

○外から見える幸の部屋の窓（朝）

小さな出窓に幸の心配そうな顔。

○幸の部屋から見えるビルの屋上（朝）

涼が照れくさそうに笑い、OKサインを出す。

体の水分を叩き落とし、こくんと会釈をし、建物内に消えていく。

○幸の部屋（朝）

幸が窓を閉める。窓から一度離れるが、もう一度出窓に戻り外を眺める。柔らかな表情の幸。

○幸の部屋から見える景色とビルの屋上（朝）

雨にけぶる景色。

屋上のコンクリートに打ち付ける雨。

○ 幸の部屋と PC ZOOM 画面（夜）

PC の画面が 5 つに分かれ、そこに

各々違う背景を背おった 5 人の顔が見える。佐藤和也 (30) が大げさに手を動かす。

和也「あれやっぱいでしょ。クマさんあれでコンペ行くって無理じゃないすか？」

金田陽子 (40) がグラスを持ち上げ一口飲む。

陽子「彼は彼で考えてるのよ。万人受けするものと自分の方向性のはざまで揺れ動いてるっていうか・・・」

和也が口をすぼめる。

和也「どうでもいいけど事務所のイメージ傷つけないでほしいす・・・ああああ、いつまで続くんだろ、この状態。息苦しくてたまんないすよ」

陽子がしょうがないな、というような表情でうなづいた後、ふと目を見張る。

陽子「幸？あんた聴いてるの？　なんか顔斜めむいちゃってるけど・・・飲んでる？」

しばらくの沈黙。

陽子「幸？聞いてんの？」

PCの横にある画用紙上で鉛筆が動く。踊りを踊っている男性の画が少しずつ鮮明になって来る。鉛筆が止まる。

はっとする幸。

幸「あ・・・すみません、陽子さん。ちよっと考え事してまして・・・。ちよっとお腹の調子悪いのですみません、ここで退出させてもらいます」

陽子「やだあ　大丈夫？じゃまた連絡するわ」
和也「また3日後くらいに召集するから、しっかりなおしとけ、な」

他の3人からも、お大事に。またね。という声上がる。

ノートパソコンをボタンと閉じ、その上に画用紙を置き、デッサンに向き合う幸。

翌日

○ 幸の部屋（朝）

机の上に微妙に違うロゴデザインが描かれた何枚かの紙が散乱している。

幸がそのうちのひとつを右手に、別のひとつを左手に持ち、見比べている様子。短くため息をつき、あくびをしながら伸びをする。出窓の方に椅子を運ぶ。そこに座り、外を眺める。

外は曇り空。屋上のビルはひっそりとして見える。

×××

出窓に向かって椅子に座っている幸の後ろ姿。幸が飛び跳ねるように立ち上がる。

○ 幸の窓から見える白いビルの屋上

（朝）

屋上の扉が開き、涼が姿を現す。右足

をフエンスに掛けてストレッチを始める。しばらくして動きを止め、顔を上げる。涼がにつこり笑いながらこくと頭を下げる。

○屋上から見える幸の部屋の窓（朝）

笑顔で会釈を返す幸。

幸が口を動かして何かを言いながら何度か掌を前に押し出し、窓から姿を消す。再び現れ、絵が描かれた紙をガラスに押し付ける。

○幸の窓から見えるビルの屋上（朝）

目を細めるような表情の涼。

首を振る。人差し指で目を指した後、ダメダメというように手を横に振る。少しの間の後、いたずらっぽい目で見上げながら指さす動作の後、パントマイムのような動きを始める。両掌を張り付けるように動かし壁に囲まれてい

るような動作。両手で頭を覆いガクツと下を向く。胸に手を当て悲しそうな表情。遠くを見つめる数秒間。突然、扉をあけ放ち、そこをすり抜けるようなパントマイムの動きの後、鳥が羽ばたくように踊りだす。

×××

踊りが終わり、最後のポーズを決め、見上げる涼。

○ 屋上から見える幸の部屋の窓（朝）

幸が満面の笑みで、拍手喝さいをしている。

○ 幸の窓から見えるビルの屋上（朝）

涼が拝むような動作で深くお辞儀をする。手を振る。背を向けてビル内に消えていく。

○ 幸の部屋（朝）

出窓の前で、画用紙を手に突っ立っている幸の後ろ姿。両手で絵を顔の前に掲げる。
右人差し指で絵の男性の顔を小さくはじく。

二日後

○ 白いビル屋上（朝）

誰もいない屋上。
コンクリートの床に太陽光線が反射している。

○ 外から見える幸の窓（朝）

出窓に肘をつきぼんやりした表情の幸。
斜め下に視線。
立ち上がる。背を向ける。
誰もいない窓辺。

三日後

○ 外から見える幸の窓（朝）

雨粒が流れるガラス窓。

幸の姿。小さく息を吐いた後、背を向け、消える。

誰もいない窓辺

○ 白いビルの屋上（朝）

コンクリートに打ち付ける雨。

四日後

○ 白いビルの屋上（朝）

涼がしゃがみ込み、小さなドローンのホルダーに手紙のようなものを挟み込んでいる。斜め上を見る。

○ 外から見える幸の窓（朝）

人の姿のない窓辺

○ 白いビルの屋上（朝）

涼がリモコンを操作して、ドローンを頭上に飛ばす。少し遠くに飛ばしては

手元に戻す練習をしている様子。
斜め上を見上げる涼。口角をあげて
満面の笑顔。両手で窓を開けろ、とい
う様な動作をする。

○ 外から見える幸の窓（朝）

首をひねる幸。窓を指さしてスライド
する動作をして同意を求めるような表
情をする。

幸が窓を開け、少し身を乗り出す。

○ 白いビルの屋上（朝）

涼がドローン进行操作する。
空を飛ぶドローン。

○ 外から見える幸の窓辺（朝）

幸が身を乗り出し、両手を伸ばしてい
る。その手にドローンがキャッチされ
る。丁寧到手紙を引き抜く。片手にド
ローンを載せその手を外へと伸ばす。

ドローンが再び空を飛ぶ。

○ 白いビルの屋上（朝）

ドローンをキャッチする涼。

胸をなでおろすような動作。

じゃ、というように手を振り背を向け
ビルの中に消えていく。

○ 幸の部屋（朝）

幸が手紙を読んでいる。

涼の声（手紙の文面）「君が何か絵のような
ものを見せてくれたでしょ？はつきり見え
なくて、あれから気になってます。

田部井涼です。駆け出しのダンサーです。

29 歳です。ラインの ID×××。よかつ
たらあの絵の写メ送ってください」

手紙を手にしばし茫然とする幸。

スマホを手に取り、涼が描かれている
絵に向け、シャッター音。

テキストを書いている様子。

幸の声（テキストの文面）「ドローンとはすごいですね。絵は、あなたの踊る姿です。描きたくなくて描きました。高村幸です。美大を出てデザイン事務所に勤めてます。このコロナ禍でテレワーク中です。すぐに³⁴ になってしまおう³³ 歳です」

スマホをテーブルに置き、コーヒーを淹れる幸。テーブルの前に座りコーヒーをすすする。スマホの着信音。素早くスマホを手取る。

涼の声（テキストの文面）「絵、描いてもらって嬉しいです。いや本当に嬉しいです。ありがとう。ドローン操作は購入後、誰もいない公園で練習しました。不要不急の外出だったかな。誕生日は5月ってこと？ 僕も5月生まれ。何日？ 僕は28」

○小さな公園（朝）

「回想」

涼がドローンを飛ばしている。

時々焦ったような表情で身をよじり、
リモコンを操作している。

○幸の部屋（朝）

テキストを書いている幸。

幸の声（テキストの文面）「明日なんです。

明日³⁴ になります。30過ぎると早いです。また踊り見せてください。あなたの踊りは淀んだ空気を一瞬で浄化してくれます」
幸がスマホ画面をポンとタップしてテーブルに置く。

○幸の部屋（夕）

幸がパソコンに向かって話をしている。
パソコン画面には小島紀子（33）が映し出されている。スカイプ通話をしている様子。

幸「だから・・ノリが思ってるほどじゃない
って」

紀子「所詮達也はそういうやつだったってこ

とだね。でも相手が美紀ってことにあたし耐えられない。あんなに幸と仲良かったのに」

幸「関係ないよ、そんなこと。てか私恋愛に向いてない。すぐま、いいか。って思っちゃうの。諦め上手。さすがに結婚式は勘弁だけど、もう平気だから。傷のかさぶた取れたらほとんど跡が残ってなかった・・・。

ノリ、それにもう2年半前の話だよ」

紀子「ふうん・・・そんなもんな・・・私だったら一生恨むなあ・・・」

幸「逆に疲れちゃうよ、そんなの」

幸が柔らかな表情でほほ笑む。

画面のノリがしばし沈黙し、目をぱちくりとする。

ノリ「あれえ・・・幸なんかいいことあった？」

動揺する幸。

幸「何よ急に・・・」

ノリ「あやしい・・・いつもとオーラが違う」

幸「違わないって」

ムキになって否定する幸。

ノリ「ますますあやしい」

幸「ね、達也と美紀の結婚式、私の分も祝つてきてね」

ノリ「わかったけど・・・私には秘密なしだよ」
幸がうんうんとうなづく。

幸「私ね、ずっと閉じこもっているせいかな夢見がちなのよ。現実的に何か起こったらノリには絶対伝えるから」

ノリがうなづく。

幸「じゃ、仕事の続きするわ。またね。バイバイ」

幸がノートパソコンをぱたりと閉じる。
顔を上げ前の壁に視線を移す。

壁に貼ってある涼の絵。

五日後

○幸の部屋（朝）

幸がキッチンで洗い物をしている。

スマホの着信音。幸がふきんで手をふ

きながらテーブルの前に座り、スマホを取り上げる。

諒の声（テキストの文面）「お誕生日おめでとう！踊りをほめてもらったので、DVDを渡したい。ドローンで配達することも考えたけど、外で少しだけ会いませんか？2メートル離れてればいいんでしょう？大丈夫、いいこと思いついたんです。何時ころなら平気ですか？」

幸がスマホから顔を上げ、慌てている様子。ほったがほんのりピンク色。

テキストを書く幸。

幸の声（テキストの文面）「ありがとう。

あなたの踊りのDVD、とても観たいです。一時間後なら出られます。どこにいればいいですか？」

諒の声（テキストの文面）「承諾してくれて嬉しいです。片倉酒店あるでしょ？あそこの前に11時にいます」

幸がスマホの画面を見つめている。

○片倉酒店前

マスクをした涼が左手に小さな袋を下げて立っている。右手にはマジックハンドのようなものを持っている。幸が向こうから歩いてくる。涼が顔をあげて手を振り、マジックハンドの先に袋を下げ、腕の部分を伸ばして幸の方へ向ける。マスクをした幸が、マジックハンドの先端で足を止め、ゆっくりとお辞儀をする。

涼「ちよつと足りないんだ。一メートル80
なんだけど、2メートルってことで」

幸「え？」

涼「ソーシャルディスタンスっていうヤツ？」
幸がああ・・というようにうなづく。

涼「それ DVD。観てくれると嬉しいです」
幸がマジックハンドから袋を取る。

幸「ありがとう。嬉しい」

幸が右手に持っていた薄い紙袋をマジ

ックハンドに引っかける。

幸「この前の絵。もらってくれるかな」

涼がマジックハンドを縮めながら袋を手に取り、中から絵を出す。

涼「写真でも感激したけど、本物はやっぱり迫力が違うな。僕こんなにかっこいいですか？」

幸が間髪を入れず、はつきりと言う。

幸「かっこいいです」

少しの沈黙。

涼がマジックハンドを再び伸ばし、幸の方に先端を向ける。

涼「手をつないで」

幸がマジックハンドの手の形をした先端を指さし、これのこと？というように首を傾ける。

涼「少しだけ散歩しませんか？ソーシャルデイスタンスを守りながら」

幸がにっこり笑ってマジックハンドと手をつなぐ。

マジックハンドで前後に繋がった二人がゆっくりと歩き始める。

雨が降り始める。涼が空を見上げる。

涼「濡れるの嫌ですか？」

幸「全然平気です。時々傘ささずにわざと濡れたりする・・変わってるかな」

涼が立ち止まって笑う。

涼「全然・・。ね、最初の出会い、思い出してみて」

幸が ああ・・と言ってうなづく。

幸「そうだね。雨の中で踊ってたんだっただねえ・・」

マジックハンドで繋がった二人の後ろ姿が雨の中、少しずつ遠ざかる。

完